

防火・防災に関する作文コンクール入賞作品

生活協同組合全日本消防人共済会が募集した「地域を守る消防団」をテーマにした作文コンクールの入賞作品十点が決定しました。本県から阿久根市立大川中学校三年植松蓮子さんの作品が優秀賞に、長島町立獅子島中学校一年竹口そらさんの作品が佳作に選ばれました。作文は次のとおりです。

「私達の生活を支える消防団」

阿久根市立大川中学校三年植松蓮子

習い事の帰り、もう遅い時刻だが、近所の消防車庫にはいつも明かりがついている。私にとっては見慣れた、でも、ようやく帰宅できるという安心感を誘う、あたたかい明かりだ。

この夏、ここに集まる消防団の皆さんを何度も見た。特に台風八号の接近時、一週間ほど前から毎日集まり、打ち合わせをしたり、避難所を開放したりしていた。また、定期的に天気や川の様子を見て、放送で地域の皆さんに状況を知らせてくれたりも。今回は幸い、避難するような事態にはならなかったけれど、もしものときに備えて、消防団の皆さんは日々の活動や訓練に励んでいる。

また、父の話では、昔は私の家の裏山も大雨が降るたびに土砂崩れが起きていたそうだ。今は崩落防止工事がされていて安全になっているけれども、私の家はお寺なので、大雨のたびに消防団の皆さんが来て、仏具などの運び出し作業をしてくれたそうだ。そして雨が上がると、再びお寺に戻すという作業まで。そのおかげで、代々受け継いでいる高価な仏具が今も立派にそろっている。その中で、一生懸命救助活動をしてくださった消防団員の人の家が、救助が終わって帰ったら、流されていたということもあったらしい。

私は、消防団の皆さんが、みんなの目にあまり見えないようなところでも、物心両面から地域の人を支えてくれているのだと改めて感じた。消防団の皆さんは消防士とは違って、他に仕事をもっている。普通、朝から一日中働いて帰ってきて、お父さん達だったらプロ野球でも見ながらビールを飲んでゆっくりしたいだろう。それなのに、しょっちゅう夜の会合に集まって打ち合わせをしたり、いざ

というときのために必死に訓練をしてくださっている。しかも、消防団は奉仕の精神により、地域の若い有志が務めてくれていそう。そういう人達のおかげで、今私達は安心して平和に暮らせている。私が消防車庫の明かりを“あたたかい”と感じるのは、その人達の地域を守ろうとする思いがあるからなのだ。そう思うと、その尊い姿に頭が下がり、感謝の気持ちでいっぱいになった。

しかし、残念なことに私達の住んでいる地域は過疎化が進み、若い人達がどんどん減ってきている。そして、高齢者世帯が地域の大部分を占めるようになってしまった。そのため消防団を統廃合したり、定年を延長したり、女性の消防団に入団してもらったりと、様々

な手段をとっているけれど、この先、どうなるのだろうか。正直不安もある。今の私にできることはよくわからないけれ

ど、ほっとする明かり“は、いつまでも
消えないでほしい。